

GINGA REPORT 401

No. 9 2
2023. 1

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和5年1月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

1月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

冬の五角形

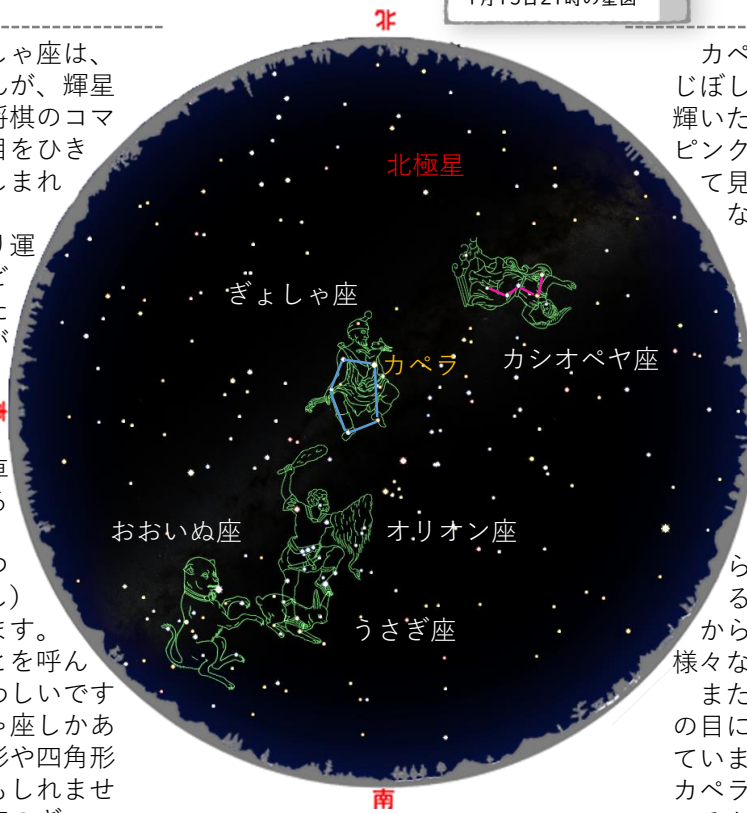
1月15日21時の星図

輝くにじ星

冬の夜空でみられるぎょしゃ座は、黄道十二星座ではありませんが、輝星カペラと、まとまりのいい将棋のコマのような五角形の星列が人目をひきやすく、古くから人々に親しまれてきた星座です。

ぎょしゃ座は馭者、つまり運転手を意味します。古代バビロニア時代には子羊を抱いた老人や、車に乗る馭者の姿がえがかれていたようです。中国でも、この五角形を五車（ごしゃ）と呼んでいたことから、やはりどこか車を想像しているところがあるようです。

日本でも、五つ星（いつつぼし）や五角星（ごかくぼし）など、様々な呼び名があります。五つ星はカシオペヤ座のことを呼んでいる地方もあり、まぎらわしいですが、五角星となるとぎょしゃ座しかありません。星といえば三角形や四角形を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、五角星の五角形、五車のぎょしゃ座も覚えておいてください。



カペラは日本の一部地域で虹星（にじぼし）と呼ばれていました。緑色に輝いたかと思うと次の瞬間真っ赤に、ピンクに、紫にと鮮やかに色が変わって見えるため、こう呼ばれるようになったと言われています。

こうした現象は、地平線の近くの激しい気流や、密度の違う空気の層が影響しています。しかし、地平線の近くではどの星にも共通の現象で、カペラだけに起こるものではありません。

ここで、カペラは天の北極に近く、日周運動によるみかけの動きが遅いため、地平線近くで見られる期間が長い星です。さらに、気流が特に激しい冬にのぼる星でもあります。こうした特徴から、大気の影響を受けやすく、様々な色に輝いて見えるのです。

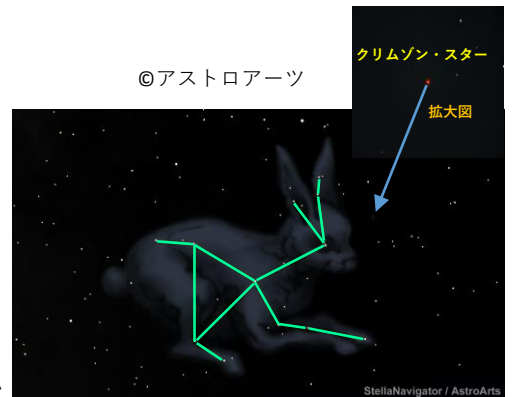
また本来2等以下の暗い星は、人間の目に色を感じさせにくいとも言われています。一等星の中でも特に明るいカペラが、冬の空の高い位置で輝いているからこそ、その色の変化を楽しませてくれていると言えるでしょう。

今月の天文トピック

小さなうさぎと真紅の目

2024年、今年のエトはうさぎですね。実は夜空にもうさぎ座という星座があります。うさぎ座は、オリオン座のすぐ南に接する小さな星座です。これといって明るい星があるわけでもありませんが、丁寧に星をたどると前足、後ろ足、大きな耳までそろって、ちゃんとうさぎにみえます。さらに星座の位置関係から想像されるのは、狩人オリオンの猟犬であったおおいぬ座に追われ、オリオンの足元で「万事休す」とうずくまっている姿です。

そんなうさぎの顔の辺りにはクリムゾン・スターと呼ばれる、まるでうさぎの目のように赤い6等の星があります。クリムゾンは真紅という意味ですが、その名にふさわしく真っ赤な色をした星です。実はこの星、約432日という長い時間をかけて、6等から11等に変化する変光星として知られています。最も明るい極大期と呼ばれるころでも肉眼で観察することは難しい星ですが、望遠鏡で覗けばその真紅の輝きに魅了されるはずですよ。



博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

日時：1月28日（土）18:00～19:30
場所：博物館前市民公園
内容：月・火星・木星を見よう





- ※当日受付・参加無料です。
- ※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)
- ※マスク着用、手指消毒をおねがいたします。

編集後記

新年を迎え、今年はこんなことにチャレンジしてみようとか、素敵な年にしたいとか、気持ちを新たにされている方も多いのではないのでしょうか。そこで、これまで見たことがないようなマイナーな星座に挑戦するのはいかがでしょうか。88星座の中に一つでもお気に入りが見つかるかもしれません。その手始めに、まずは今年のエト、うさぎ座を探してみましょう。

1月の月

- 7日  満月
- 15日  下弦
- 22日  新月
- 29日  上弦